相良五郎左衛門長家（入道牧庵）

覚

先年致奔走以隣国之僅々依而打入出水へ
被為下候時分　惟新様為　御意吉田宗右衛門尉
被仰付も無之候ニ成候、思入ニ而致乞一の兵由
承候間、我等取持候而若干下有其後為
御意被召出主計殿引陣之時其節寄
忠節知行百石可被下之由御約束候然所ニ其田
宗右衛門尉方仕合悪敷候も猶々前尾無之候
知行のこゝにて遣跡野村年貢作当ニ付候も無念
被申召数を存候ニ付案内候林田宗右衛門
尉宗右衛門尉ニ付無断儀無之候由申候ニ付
へ付則彼両人ニ志宗右衛門尉事上御存候事ニ成候
拙子事も知行百石約束之　御存之、
前後之角々儀此御座候先年ニ者有之
御尋之上以之の旨ニ預候事者候ハゝ以上

寛永十三年十二月十一日

[illegible]

新納加賀守殿